

＜河北新報web版2013年03月04日＞

原発事故に向き合う福島農家の光 記録映画、山形で初上映



作品に込めた思いを語る原村監督(中央)。右は出演者の一人で天栄米栽培研究会の吉成さん

福島第1原発事故に直面しながらも「コメへの放射能汚染ゼロ」に挑んだ、福島県天栄村の農家に光を当てたドキュメンタリー映画「天に栄える村」が完成した。山形市内で開催中の復興支援上映会で初上映され、原村政樹監督と出演者代表が3日、会場で作品に込めた思いを語り合った。

「天に栄える村」は質の高いコメ作りに取り組む「天栄米栽培研究会」が、原発事故とどう向き合ったかを描いた。

原発から約70キロ離れた天栄村も放射能汚染に遭った。研究会の農家たちは原発事故のすぐ後からコメへの影響をゼロにしたいと思い立ち、コメ作りを続行。試行錯誤を重ね、放射性セシウム未検出のコメを作り上げた。

3日の上映後、原村監督と同研究会事務局長の吉成邦市さんが、映画製作の裏話も交えながら来場者に語り掛けた。

原村監督は「大変な困難に直面しても乗り越えていく姿から、人の生き方を問い掛けたかった」と話した。吉成さんは「原発事故の苦悩は福島だけの問題ではない。コメ作りを通じた挑戦を多くの人に知ってもらえたらと思う」と語った。

上映会は山形市のNPO法人「山形国際ドキュメンタリー映画祭」が主催し、1～3日の3日間開催した。

2013年03月04日月曜日